

これから手術・治療を受けられる方へ

からだに負担の少ない治療を

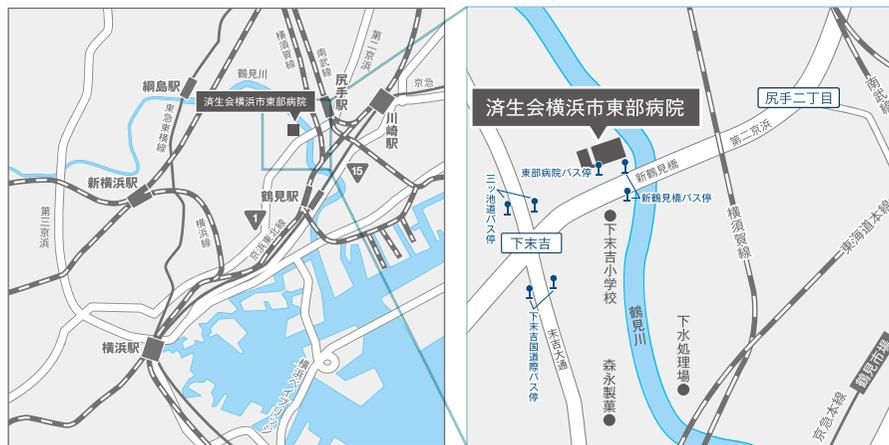
前立腺がん治療

前立腺治療センター



社会福祉法人 SAISEIKAI YOKOHAMASHI TOBU HOSPITAL
医療
財団 済生会横浜市東部病院

〒230-8765 神奈川県横浜市鶴見区下末吉3-6-1
TEL : 045-576-3000 (代表) FAX : 045-576-3525
E-Mail : tobu@tobu.saiseikai.or.jp
URL : <http://www.tobu.saiseikai.or.jp>
Facebook : <https://www.facebook.com/tobu.saiseikai/>



アクセス

公共交通機関の場合

- JR・京急 鶴見駅からバスで約10分
- JR・京急 川崎駅からバスで約10分
- JR南武線 尻手駅から徒歩で約15分
- JR・市営地下鉄 新横浜駅からバスで約30分
- 東急東横線 綱島駅からバスで約20分
- JR・京急・東急東横線・市営地下鉄 横浜駅からバスで約30分

車の場合

- 横浜方面から
国道1号(第二京浜)「新鶴見橋西側」交差点を左折
- 東京方面から
国道1号(第二京浜)「新鶴見橋西側」交差点を右折



社会福祉法人 SAISEIKAI YOKOHAMASHI TOBU HOSPITAL
医療
財団 済生会横浜市東部病院



一人ひとりに
最適な選択肢を
提供します

前立腺治療センター・センター長
石田 勝
Masaru Ishida

日本屈指の技術力が可能にする、 からだに負担の少ない治療法

東部病院では、精密かつ安全な手術を可能にする手術支援ロボット「ダビンチ」、手術が不安である合併症をお持ちの患者さんや、高齢の方などにも広く有効な放射線治療「サイバーナイフ」と「密封小線源治療」を取り揃えています。これら最先端の技術を熟知した泌尿器科専門医が、一人ひとりに最適な治療法を提供いたします。

治療法	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
前立腺針生検	235	298	275	330	324	327	357	433
前立腺全摘除術	21	5	0	0	0	0	0	0
ロボット支援前立腺全摘除術 (ダビンチ)	14	55	55	70	70	78	103	125
サイバーナイフ (IMRT)	21	21	16	19	19	18	5	0
サイバーナイフ (SBRT)	0	0	0	0	0	16	31	42
密封小線源療法	41	49	48	72	63	47	34	49

※IMRTは37～39回の照射を7～8週間の通院治療で行います。SBRTは1～2日おきに5回の照射を2週間の通院治療で行います。

前立腺癌の手術治療と放射線治療の比較

手術治療が放射線治療に比べて有利な点

1. 鼠径ヘルニアを除き、晚期合併症が少ない（放射線性直腸炎を起こさない）。
2. 併存する排尿障害の諸症状が改善する。
3. 前立腺全体を病理学的に検討することにより、正確な診断が可能となる。
4. (入院治療となるが) 治療期間が短い。
5. 術後のPSAの低下が急峻で、治療効果を早く実感できる。
6. 術後の再発時の治療のために放射線治療を残しておくことができる。
7. 被ばくしない。

放射線治療が手術治療に比べて有利な点

1. 心疾患、脳血管性病変、および重篤な呼吸器疾患を有していても治療が可能。
2. 尿失禁や勃起障害が手術治療より起こりにくい。

最先端の技術で前立腺がん根治をめざす

より効果的だからだに負担の少ない3つの治療法



ダビンチ

腹腔鏡手術
費用約45万円
(健康保険3割負担の場合)

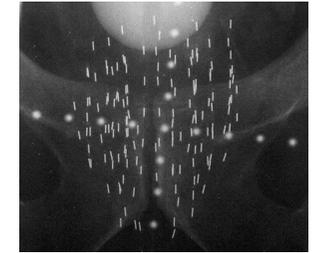
→P.3へ



サイバーナイフ

放射線治療・体外照射
費用約50万円
(健康保険3割負担の場合)

→P.4へ



密封小線源治療

放射線治療・組織内照射
費用約35万円
(健康保険3割負担の場合)

→P.5へ

費用例

ダビンチによる前立腺がん手術
前立腺全摘出術8日の場合 (入院期間が月をまたがない場合)

健康保険を使用の場合	年齢	負担額
▶	70歳未満の方	約45万円(3割負担)
	70歳以上の方	57,600円(所得により異なる場合があります。)

年齢	所得区分	ご負担額
70歳未満の方	年収約1,160万円～の方	約26万円
	年収約770～約1,160万円の方	約18万円
	年収約370～約770万円の方	約9.5万円
	～年収約370万円の方 住民税非課税の方	57,600円 35,400円
70歳以上の方	57,600円	

◀ 高額療養費制度を利用の場合
(一般所得の場合)

※上記金額に食事代・個室代は含まれておりません

・高額療養費制度・

公的医療保険における制度の一つで、医療機関や薬局の窓口で支払った額が、暦月(月の初めから終わりまで)で一定額を超えた場合に、その超えた金額を支給する制度です。

ダビンチ

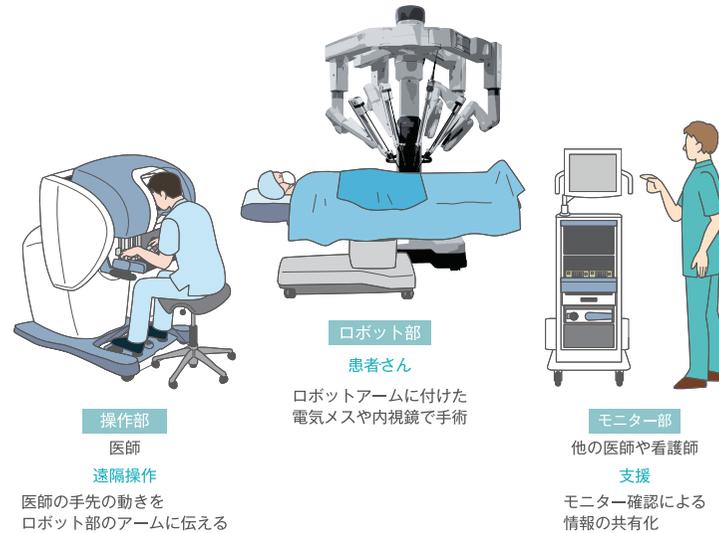
topics

当院ロボット手術センター公式キャラクター「ロボてくん」が誕生しました。

より安全で確実なロボットと人間による手術

ダビンチ手術について

「ダビンチ」は、4本のアームを持ち、1本のアームはカメラを、残りの3本のアームは電気メスなどの器具を装着します。そのカメラを通した3D画像を医師が見ながらアームを操作することで、人間の手を超えた緻密な動きを実現。がんの切除や患部の縫合を安全・確実に行うことができます。手術後の痛みも少なく回復が早いので、早期退院が可能になります。



ダビンチ手術のメリット

米国ではすでに、前立腺がん摘出手術の大半を「ダビンチ手術」が担っています。その手術成績は良好で、従来の開腹手術と比較して、「出血量が少ない」「がんの取り残しが少ない」「術後尿失禁が少ない」「勃起機能維持率が高い」といったメリットも報告されています。勃起機能温存を希望される方は主治医までご相談ください。

ダビンチスケジュール



※手術中に眼圧が上がることもあり、眼病のチェックをします。出血が多い時に備えて、念のためご自分の血液を貯める場合があります。

ロボット支援前立腺全摘除術(ダビンチ)実績

2020年3月末時点
症例数合計570件



ロボット手術センター公式キャラクター「ロボてくん」



「ロボてくん」は患者さん・医師・手術支援ロボットの三者が手と手をつないだ先に未来があることを表現したキャラクターです。

サイバーナイフ

topics

当院では照射精度が高いサイバーナイフを前立腺がん治療に使用しています。2016年4月からは健康保険が適用された定位放射線治療(SBRT)を行っています。前立腺がんに対する従来の外照射治療では、8週間程度、連日の照射(土日祝日は除いて)が必要ですが、定位放射線治療2週間1日おきで合計5回の照射のみで治療が完了します。治療効果は従来の方法と変わらず、通院の負担が大幅に軽減されます。

通院での治療が可能になる
高精度 X線照射

サイバーナイフについて

サイバーナイフ治療は、高精度のロボットアームにX線照射装置を組み合わせた治療法で、放射線によりがんの根治を目指します。ロボットアームは、最大1,200方向から照射を行うことができ、複雑な前立腺の形にもミリ単位以上の精度で対応することができます。また、治療中は高精度のモニタリングで、患者さんのわずかな動きにも自動的に対応します。



サイバーナイフのメリット

前立腺に金マーカーを留置することで、サイバーナイフによる精密な放射線照射(定位放射線治療:SBRT)が可能となります。前立腺に十分な量の放射線を集中させ、前立腺以外への放射線の影響を最小限に抑えることで副作用の軽減を図ります。通院での放射線照射は5回で済むため、従来の放射線治療と同等の治療効果で治療にともなう負担が大幅に軽減されました。

サイバーナイフスケジュール



※2泊3日の場合もあります

サイバーナイフによる定位放射線治療ならびに密封小線源治療を受けられる患者さんへ

放射線による直腸後遺症(下血、肛門痛)を予防する目的で、前立腺と直腸の間にハイドロゲルを注入する方法を東部病院では2018年3月から実施しています。ハイドロゲルは体内に注入すると固まり、数ヶ月後に吸収されます。ハイドロゲルにより前立腺と直腸の間にスペースができるため、直腸にかかる放射線が大幅に低減されます。注入は、金マーカー留置のときまたは密封小線源挿入のときに同時に行うので、特別な負担はありません。

密封小線源治療

入院期間の短縮に加えて
合併症も少なく

密封小線源治療について

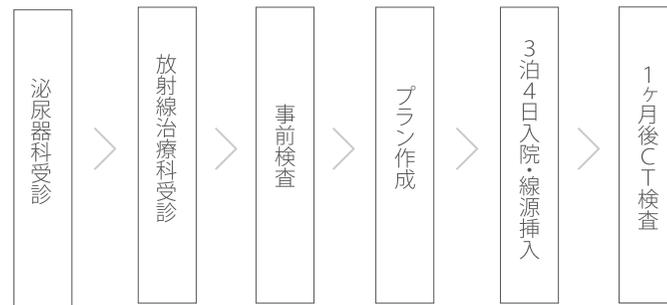
微弱な放射線を出す小さな線源を前立腺内に挿入し、前立腺内部から放射線を照射する治療法です。挿入の際は、コンピューターにより、他の臓器への影響が少なく、治療効果が高い場所を選びます。放射線を前立腺内に集中照射するため大きな効果が期待でき、当院でも2007年10月の治療開始以来、約600名を超える患者さんを治療し、良好な治療成績を得ています。



密封小線源治療のメリット

放射線を前立腺内に集中して照射できるので、合併症が少なく、3泊4日と入院期間も短い治療です。副作用として排尿障害が起こりますが、半年から1年ほどで多くの方が改善します。

密封小線源治療スケジュール



※前立腺がんの程度により、25回5週間の通院による外部照射の併用が必要な場合があります。

Q. 「ダビンチ」「サイバーナイフ」「密封小線源治療」どの治療が一番良いのですか？

A. 患者さんごとに症状(がんの状態、前立腺肥大の有無)、これまでにかかった病気や手術歴、年齢など様々な条件が異なります。また、仕事や趣味、生活のスタイルなども人それぞれのため、患者さんによって最適な治療は異なります。
東部病院では多くの治療手段を揃えることで、最適な治療を提案しています。

質の高いがん医療への取り組み

治療中も、患者さんによりよい生活を送っていただきたい — それが当院の願いです。



がん診療連携拠点病院

当院は2014年8月16日に国の定める“がん診療連携拠点病院”に指定されました。がん診療連携拠点病院とは、質の高いがん医療の全国的な均てん化を図ることを目的に整備された病院です。がん医療と真摯に向き合っており、技術を高めてきた当院の姿勢が、認められた証でもあります。



診療科の垣根を越えたチーム医療

当院では、一人ひとりの患者さんの治療計画をあらゆる診療科がチームを組むことにより、専門分野の垣根を越えた最善の治療を提供できるよう努めております。この体制により患者さんの負担が軽減され、常に一歩先の医療が実現できると考えております。



化学療法と緩和ケア

通院による薬物療法(外来化学療法)は、仕事や学業など、通常の生活リズムを大きく崩すことなく毎日をご過ごせるというメリットがあります。私たち化学療法室、緩和ケアチームのスタッフは、患者さんがご自身の病気を理解し、社会生活と両立して安心して治療が続けられるように対応しております。



地域連携や相談窓口でのサポート

病院内だけでなく、この地域の医療機関や行政機関とも情報を共有し、患者さんに適切な治療が継続して行われるようサポートしています。お困りのことがございましたら、1階「がん相談室」へお越しください。治療に関することはもちろん、在宅時の支援や就労支援、助成制度など幅広い内容に対応しております。